

## 高 校 選 び (1)

新年度も始まり、中学3年生にとっては次のステップに進むための大切な年がスタートしました。大半の生徒は高校に進学すると思います。一口に進学するといっても、日本全国には沢山の高校があるわけで、そのなかから1校に進学することになります。

中学3年生の皆さんが通学可能な学校は、どのくらいあるのでしょうか。無論、他県の学校に寮生活を送りながら通学しているケースもあると聞きます。しかし多くの生徒は自宅から通学できる範囲の高校を選択することになります。それでも新幹線等を利用して埼玉県や千葉県、静岡県に通学している生徒もいます。では、自宅から通学できる高校は、どのくらいあるのでしょうか。

文部科学省の調査によれば、平成28年5月現在、日本にある高校数は4,925校あり、その内訳は国立が15校、公立が3,589校、私立が1,321校となっています。しかしながら自宅から通学できる学校となると、神奈川県内の高校と東京都の私立高校、東京都にある国立高校になると思います。神奈川県内には、235校の高校があります。その内訳は県立が142校、市立が15校、私立が78校となっています。東京都内には国立高校が8校、私立高校が237校あり、神奈川県内と東京都内の高校を合わせると480校、これに私立の広域通信制高校を含めると500校超す学校の中から1校を選ぶことになります。

学校選びには、生徒一人ひとりによって思考や行動が異なりますので、この選択方法がベストであるというものは存在しません。各高校には教育理念や教育目標、校風、アイデンティティーなど、長年に渡って受け継がれてきたものがあります。これが学校選択の一つの決定要因になることもあります。例えば、本校の場合、29年度から単位制普通科の高校になり、教育目標を次のように改めました。

- ・自主自律－主体的に生き、自らを律することのできる心の強い人間を育成する。
- ・自他敬愛－自ら敬い愛するだけでなく、他人を敬い愛する姿勢を持つ人間を育成する。
- ・自立精進－自分の目標や夢に向かって精進し、挑戦する姿勢を持つ人間を育成する。

このように各校で教育目標は異なりますが、これを実現するため、日々の教育活動が営まれています。

中学生の皆さんが学校選択するときのファクターに何があげられるのでしょうか。校風、施設環境、学力、経済面、学科・コース、進路、カリキュラム、生活指導、部活動、取得資格、入試の選考方法、系列・付属高校、大学や企業からの指定、留学・修学旅行などが考えられると思います。これらファクターのなかから自ら選択し、志望校を決定するのだと思います。

高校選び、高校受験に向けて次のことに努めてください。①中学校の学習を大切に 基礎から実践です ②学力検査・面接・作文など、総合的な学力を養成してください ③模擬試験等

を用いて客観的な力を知ることで ④早くから情報を収集しましょう

まずは、学校見学や学校説明会に行つて自分で確かめて見ましょう。



### 藤井四段の快速撃から

最近、将棋界を騒がしているのが藤井聡太四段です。彼は現在、名古屋大学教育学部附属中学校に在学しています。昨年 10 月に加藤一二三九段の持っていたプロ棋士デビュー最年少記録を 14 歳 2 ヶ月で更新し、プロ初戦でその加藤九段に勝つて公式戦の連勝記録を伸ばしています。また、公式な対局ではないのですが、3 月から 4 月にかけて AbemaTV が企画した「藤井聡太四段 炎の七番勝負」

で 2016 年新人王塚田四段、永世棋聖の佐藤康光九段、永世称号 6 つの羽生善治三冠らと対局し、6 勝 1 敗という戦績を残しました。間違いなく次世代の将棋界の牽引者が出てきたといえましょう。藤井四段が果たしてタイトルを取るのは何歳になるのかが話題になっています。集中力の谷川、マジック(終盤劣勢を逆転する)の羽生といわれますが、藤井四段は読みの正確さは凄いとされています。

将棋界で谷川九段、羽生三冠、藤井四段に共通しているところは、子どもの頃、将棋に関しては負けず嫌いの面が見られるところだと思います。谷川九段は子どもの頃、兄(後に東大将棋部で活躍したアマ棋士)に負けると悔しがつて将棋の駒を噛んだそうです。羽生三冠は子どもの頃、負けされた相手を仁王立ちで睨んだそうです。藤井四段は奨励会(将棋のプロになるため六級から三段まである)に入りたてのときに 6 連敗し、母親と一緒に帰るとき、号泣したという話が残っています。負けず嫌いとは棋士ばかりではありません。勝負のかかるスポーツ選手などほとんど負けず嫌いの性格だといわれます。そうでなければ、勝負に負けたのに、その競技を続けることはできないからです。しかしながら研究者や企業のトップにも、負けず嫌いが多くといわれています。

出来ないことが悔しくて出来るまで練習しようとする。天才なんていない。日々、その道に努力しつづけ、最終的に勝った人がいるだけです。とりちがえていけないのは、スポーツや将棋、囲碁などの場合は、自分に勝つことは他人を負かすことになりませんが、勉強の場合、他人を負かすことではなく、自分に勝つこと、自分を高めることが大切です。自分の志望校に合格するために日々努力することが大切です。負けてしまった、失敗してしまった、間違えてしまったという事を、再び起さないような策を立て、克服に向けて努力することが成功の秘訣です。成功した人の共通点は自分を客観的に見られるかどうか大きな鍵といわれています。

室町時代の能楽師世阿弥の言葉に「離見の見」という言葉があります。これは能や歌舞伎の演技者が、自分の演じている姿を観る側から見ることを、すなわち自分を客観的に見ることを示しています。客観的に自分を見ることで長所や短所が認識でき、その短所を課題と捉えて克服していけば成長できるはずで、自分の姿を鏡を見て、まずは自己の課題を認識しましょう。